

## 韓日女子学生の体型意識と衣服の購買・着装行動について（第2報）

—韓日女子学生の衣服の購買行動と着装行動について—

孫 珠熙\*    安 玉姬\*\*    鄭 容熙\*\*    中川早苗\*

Body Type Consciousness and Its Relationship to Purchasing and Wearing Behavior of Clothing : Comparison between Korean and Japanese Female Students [Part II]

—Purchasing and Wearing Behavior of Clothing : Comparison between Korean and Japanese Female Students—

Ju-hee Sohn\*    Ok-hee An\*\*    Yong-hee Jung\*\*    Sanae Nakagawa\*

### Abstract

A questionnaire survey was conducted on 484 Korean and Japanese female students to clarify the difference in their purchasing and clothing behaviors. T-test, chi-square test and factor analysis were used to analyze the results. (In the following paper, Korean female students are referred to as Koreans and Japanese female students as Japanese.)

#### 1. Purchasing behavior of clothing

- 1) Many Koreans obtain fashion information through wares on display at shops, while many Japanese find it in fashion magazines.
- 2) Koreans favor abstract patterns for clothes, while Japanese favor solid color. Difference was also found in color taste for clothes. Koreans favor "black" and "white", while Japanese favor "black", "navy" and "blue".
- 3) With respect to purchasing attitude, Koreans attach importance to fashion, while Japanese think much of their own taste and are not very particular about brands.

#### 2. Clothing behavior

- 1) Most students of both countries want to create a good coordination of upper and lower clothes.
- 2) With respect to the images of preferred clothes, Koreans evaluate streamlined, urbane and modern ones more highly than Japanese do, while Japanese evaluate light, easy and bright ones more highly. The factor analysis has extracted 5 factors: ① simplicity, ② modernity, ③ conspicuousness, ④ lightness and ⑤ casualness. Significant difference was found between the two countries in the first two factors but not in the last three.

(キーワード 韓国の女子学生 : Korean female students, 日本の女子学生 : Japanese female students, 衣服の購買行動 : Purchasing Behavior of Clothing, 衣服の着装行動 : Wearing Behavior of Clothing)

### 1. 緒 言

第1報(安、孫、李、中川 1999)では韓日女子学生の体型意識の特徴と差異について明らかにするために、韓国と日本の女子学生を対象に、身体のサイズ、体型の満足度、理想とする体重と身長、現実の体型と理想の体型、理想とする体型に対する意識などを中心に質問紙調査

\* 奈良女子大学

\*\* 韓国, 嶺南大学校

を行った。分析方法は単純集計やクロス集計を用いて、t検定、カイ二乗検定、因子分析を行った。その結果、身体のサイズについては、韓国の女子学生が日本の女子学生より身長が高く、体重が重く、ウエストが大きい傾向がみられた。また、体型の満足度については、両学生共に不満足であり、特に全般的なスタイル、上半身、顔については日本の女子学生の方が、身長については韓国の女子学生の方がより不満足と答えた者が多く、有意な差が見られた。現実の体型と理想とする体型については全般的に日本の女子学生の方が韓国の女子学生よりギャップが大きい。また、下半身については両国ともに大きなギャップがみられた。

本報では、これらの体型意識によって衣服の購買行動・着装行動に差異が見られるのではないかと考え、同様に質問紙による調査を行った。なお、既存の関連研究には、川崎ら<sup>1)</sup>の女子学生における衣料品の選択・購入行動の基本的なパターンを探った研究、川本ら<sup>2)</sup>の服装イメージの嗜好傾向と被服行動との関連についての研究、井手ら<sup>3)</sup>のブランド衣服の購買行動に与える諸効果を女子大生とその母親を対象に比較考察した研究など見られるが、衣生活の比較の視点から韓日女子学生の体型意識と衣服の購買・着装行動について検討した研究は見当たらない。

これらの研究を通して韓日女子学生の衣服の購買・着装行動を明らかにすることは、文化の異なる国における若者のファッション意識の理解やグローバルな視点からのアパレル商品の企画や設計を行う上で重要な示唆を与えるものと思われる。

## 2. 研究方法

第1報<sup>4)</sup>で仮説に上げたように、韓日女子学生の衣服の購買・着装行動には差異が見られるのではないかという理論仮説にもとづいて、測定が必要で可能な項目を取り上げて構成した作業仮説をもとに調査項目を設定した。分析モデルは年齢・兄弟姉妹の数・出身地・現在の住居

形態・通学手段及び、身長、体重、バスト、ウエストのサイズなどの基本属性を独立変数に、従属変数である衣服の購買行動と着装行動を明らかにするという図式である。(第1報参照)

調査方法は韓国の嶺南地域(日本の関西地域に対応する、大邱市)と日本の関西地域(奈良、京都、大阪、神戸市)に在住する4年制大学と短期大学の女子学生を対象に、1998年7月から10月に配布留め置き法による質問紙調査を行った。有効回収数は韓国242票、日本242票計484票で回収率は96%であった。

主な調査項目は、衣服購入時の意識や行動、デザイン(ここでは色、柄、素材)の好み、購買態度、購入場所、衣服による体型カバー意識、着装態度、好きな服装イメージなどである。なお、好きな服装イメージについてはSD法による21対の形容詞を用いて、5段階で評定を求めた。データの集計・分析には、単純集計やクロス集計を用いて、t検定、カイ二乗検定をもとにそれぞれの特徴と差異を明らかにした。次に、好きな服装イメージについての意識の構造を明らかにするために因子分析を行った。

## 3. 結果及び考察

### 3・1 韓日女子学生の衣服の購買行動について

#### 3・1・1 衣服購入時の意識や行動について

まず、韓日女子学生の衣服購入時の意識や行動についてみると、図1の「衣服を購入する時体型に気を使いますか」については、日本の女子学生は「非常に気を使う」が22.3%、「気を使う」と合わせると80%であるのに比べ、韓国の女子学生も合わせて80%であり、日本の女子学生と差がないが、「非常に気を使う」には日本の女子学生の方が2倍多く差がみられた。図2の「衣服を購入する時同行する人は」については、両国の女子学生とも「友達」と答えた人が50%前後、ついで韓国は「両親や兄弟、姉妹」と答えた人が36%、日本の女子学生は「ひとり」と答えた人が30%近く、韓国の女子学生の方が家族と一緒に買い物をする傾向が見

られた。図3の「ファッション情報はどこから入手しますか」については、韓国的女子学生は「売場の陳列商品」からが55%と最も多いのに対し、日本的女子学生は「雑誌から」と答えた人が72%で非常に大きな差異がみられた。韓国は雑誌類が少ないために、ファッション情報を売場の陳列商品から取り入れていると思われる。図4の「あなたはどのくらい衣服を購入しますか」については韓国的女子学生は「いつでも」、日本的女子学生は「季節別」にそれぞれ50%近い人が答えている。「月1回」と「季節別」を合わせると、日本的女子学生は72%、韓国的女子学生は52%で「季節別」が多く、ついで「1ヶ月」であり、日本的女子学生の方が購入頻度が高い。

### 3・1・2 デザインの好み

次にデザインの好みを、まず図5の「好きな衣服の柄」についてみると、韓国的女子学生は「抽象柄」、日本的女子学生は「無地」と答えた人が60%以上となっており、「チェック」、「花」については日本的女子学生が「好き」、「ストライプ」は韓国的女子学生が「好き」と答えており、柄の好みに危険率0.1%で有意な差が見られた。図6の「好きな衣服の色」についても韓国的女子学生は「黒」と「白」と答えた人があわせて70%近くになっており、特に韓国的女子学生は圧倒的に「白」を好んでおり、日本的女子学生より4倍多い。しかし「黒」については大きな差がなかった。「黒」と「紺色系」「青系」を合わせると、韓国的女子学生より日本的女子学生が50%以上となり、色の好みに危険率0.1%で有意な差異が見られた。しかし、「ベージュ系」、「黄色系」は差がみられなかった。韓国は古くから白衣民族と呼ばれていることが「白」を好んでいることと一致している。また、日本は海洋性気候なので紺色系を好んでいると思われる。

「冬の衣服として好きな素材」については図7の韓国的女子学生は「ウール」と答えた人が50%に対し、日本的女子学生は70%近い人が

答えており、冬の衣服素材としては「ウール」が好まれる。次に韓国的女子学生は天然繊維と化学繊維の混紡が16.1%であり、ついで「革」や「毛皮」をあわせて23%以上の人が好んでおり、日本的女子学生と「冬の好きな素材」に危険率0.1%で有意な差が見られ、韓国的女子学生の方が「革」や「毛皮」等の衣服で寒い冬の気温により対応していることがわかる。日本の小学生の制服は冬も素脚でショートパンツを着てソックスをはいているが、韓国の小学生は長ズボンを着ており素脚の習慣はない。この現象は気候の違いよりも習慣の違いによって好まれる素材が異なることが伺える。図8の「夏の衣服として好きな素材」については両国とも「綿」が75%であり、ついで「麻」を10%近い人が好んでおり天然繊維を好んでいる傾向がみられるが、ポリエステル、合成繊維、天然繊維と合成繊維の混紡には「夏の好きな素材」に危険率0.1%で有意な差が見られ、韓国的女子学生がより合成繊維を好む傾向がみられた。

### 3・1・3 購買態度

購買態度（図9）については、「着心地や動き易さを重要して買うー見た感じや美しさを重要して買う」という間には、韓国的女子学生が「見た感じや美しさを重要して買う」と答えた人が52%で、日本的女子学生の48%より少し多い。「流行のものを買うー流行にはこだわらない」、「バーゲンセールをよく利用するーバーゲンセールはあまり利用しない」については韓国的女子学生が流行を重視しバーゲンを利用する人が多く、日本的女子学生は「流行にはこだわらない」と答えた人が38%である。「数は少なくてもいいものを買うー安くてもいいから数多く買う」は日本的女子学生が43%で、韓国的女子学生の38%より多く、「ブランドを重視して買うーブランドにこだわらない」については日本的女子学生はブランドにはあまりこだわらない傾向がみられた。「計画をたてて購入するー衝動買いすることが多い」、「衣服にはお金を賭けるー衣服にはあまりお金を賭けない」、

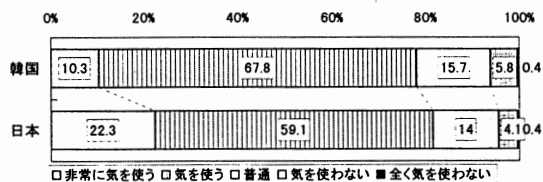


図1 衣服を購入する時体型に気を使いますか (\*\*)

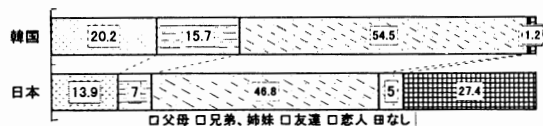


図2 衣服を購入する時同行する人は (\*\*\*)

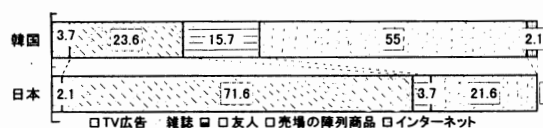


図3 ファッション情報はどこから入手しますか (\*\*\*)

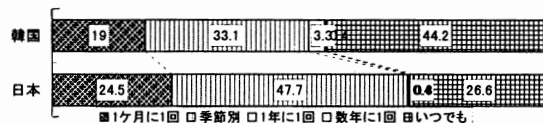


図4 あなたはどのくらい衣服を購入しますか (\*\*\*)

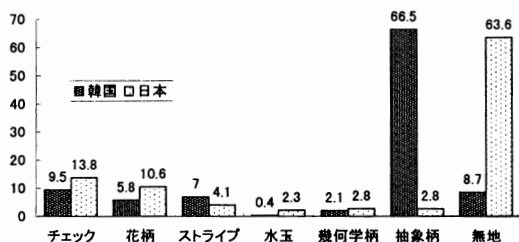


図5 あなたの好きな衣服の柄は (\*\*\*)

\*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

「衣服はシーズンの初めに買うー衣服はシーズンの終わりに買う」という問には、韓国的女子学生の方が日本的女子学生より「計画をたてて購入する」、「衣服にはお金を賭ける」、「衣服をシーズンの初めに買う」と答えた人が多く見られた。「自分の好みに合ったものを買うー店員のすすめるものを買う」については両国的女子学生とも60%以上が「自分の好みに合ったものを買う」と答えている。「いつも決まった店で買うー買う店は決まっていない」については韓国的女子学生は60%近い人が、日本的女子学生は40%以上の人が「買う店は決まっていない」と答えている。

しかし、「いつも決まった店で買う」と答えた人は日本的女子学生が28%で、韓国的女子学生の17%より多かった。「高くても欲しいものは無理して買うー欲しいものは高ければあきらめる」については韓国的女子学生が「高くても欲しいものは無理して買う」と答えた人が50%近く、日本的女子学生は両方とも37%近い人が答えている。即ち、韓国的女子学生は流行やバーゲンを重視し、日本的女子学生は自分の好みや決まった店で購入しており、傾向に差異が見られた。

### 3・1・4 購入場所

購入場所については、図10の「あなたは外出着を主にどこで購入しますか」という問には韓国的女子学生が30%以上、日本的女子学生の60%がデパートで外出着を購入しており、ついで専門店には、韓国的女子学生が30%以上、日本的女子学生は25%の人が答えている。また、図11の「その理由」については両国ともに40%以上が「個性に合うから」と答えているのに対して韓国的女子学生は「安い」、「流行に敏感」の順に答えており、日本的女子学生は「流行に敏感」、「交通の便利さ」の順に答えている。これは、ヤングマーケットにおいては、韓国的女子学生は百貨店の方がやや価格が高いため、専門店で流行のものを安い価格で購入していることと、日本的女子学生は数が少なくて

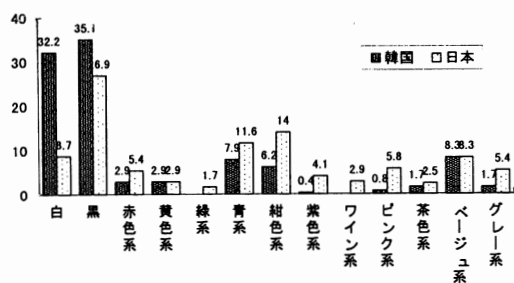


図6 あなたの好きな衣服の色は (\*\*\*)

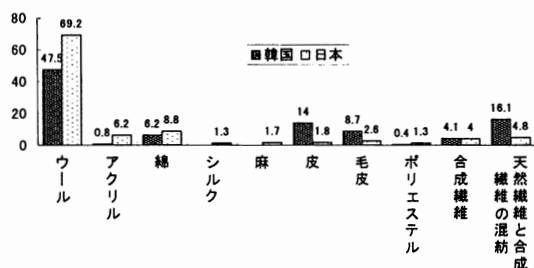


図7 冬の衣服として好きな素材は (\*\*\*)

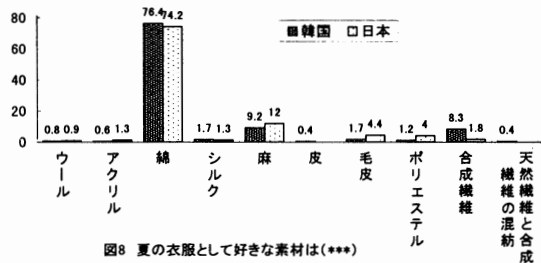


図8 夏の衣服として好きな素材は (\*\*\*)

図8 夏の衣服として好きな素材は (\*\*\*)

\*  $p < 0.05$  \*\*  $p < 0.01$  \*\*\*  $p < 0.001$

もいいものを購入している百貨店利用者が多く、交通の便利さや商品の品揃えの影響と思われる等、差が見られた。また、この現象は両国の婦人服の輸入・輸出の傾向、つまり、韓国のファッション性のあるヤングマーケット商品が日本のファッション専門ビルへ、日本のブランド商品が韓国へと、今日の流通の傾向が反映されているとみられる。

図12の「あなたは現在所有している衣服量

に満足しますか」については両国の女子学生ともに60%の人が「やや不満」、「不満」であると答え、衣服量に不満を表している傾向がみられた。

### 3・2 韓日女子学生の衣服の着装行動

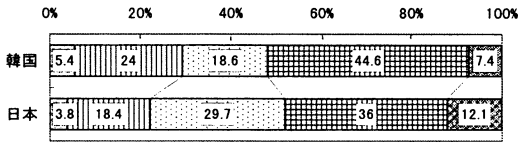
#### 3・2・1 衣服による体型カバー意識

「衣服による体型カバー意識」(図13)については、全般的なスタイルに対しては両国の女子学生とも90%近い人が上下の衣服の組み合わせや配色に気を配っており、衣服の丈の長さにも75%が気を配るなど、スタイルがよく見えるような工夫をしていることがわかる。下半身のカバーについても、両国の女子学生とも80%近い人がスカートの丈、スカートの形、靴のデザイン、靴のヒールの高さに気を使っている。

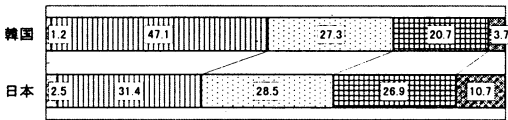
#### 3・2・2 着装態度

着装態度については、図14の「あなたが外出のときによく着用する衣服は」という問には、韓国の女子学生は「ジャケットとパンツ」と答えた人が50%以上で多く、日本の女子学生は「ニットとパンツ」と答えた人が40%が多い。図15の「その理由は」については、韓国の50%以上、日本の80%が「好きなので」と答えている。これは日本の女子学生より肩幅が広い韓国の女子学生が肩幅が広くみえないアイテムとして、またすっきりするイメージのかっこうとしてジャケットを好むのではないかと思われる。また、日本の女子学生はニットを好む理由として、バストの形や肩幅にそれほど神経をつかわなく、気軽なイメージのカジュアルな服装を好んでいるからだと思われる。図16の「新しいファッションの採用について」は韓国の女子学生の方が50%近い人が新しいファッションの採用に積極的であり、日本の女子学生は「ほとんど採用しない」と答えた人も27%で、「新しいファッションの採用」に危険率0.1%で有意な差が見られた。

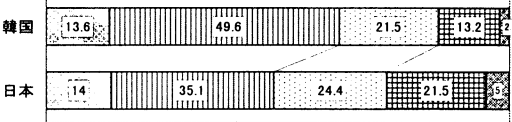
着心地や動きやすさを重要して買う  
—見た感じや美しさを重要して買う(\*\*)



流行中のものを買う—流行にはこだわらない(\*\*\*)



バーゲンセールをよく利用する  
—バーゲンセールはあまり利用しない(\*\*)



数は少なくとも良いものを買う  
—安くてもいいから数多く買う(\*\*\*)

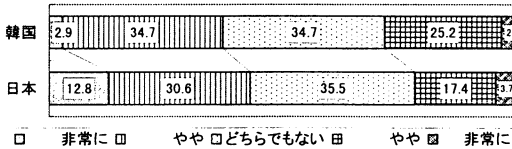
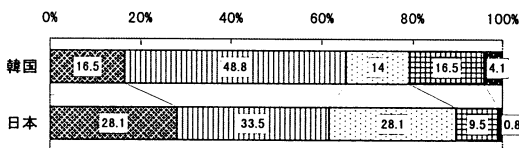
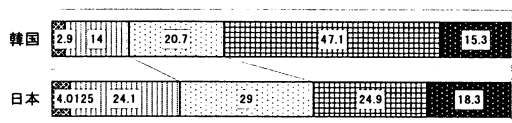


図 9-1 購買態度

\* p < 0.05 \*\* p < 0.01 \*\*\* p < 0.001  
自分の好みに合ったものを買う  
—店員のすすめるものを買う(\*\*\*)



いつも決まった店で買う—買う店は決まっていない(\*\*\*)



高くても欲しいものは無理して買う  
—欲しいものは高ければあきらめる(\*)

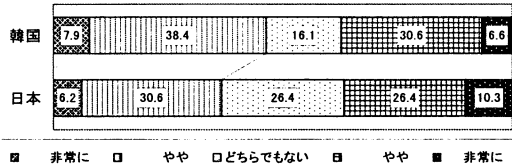
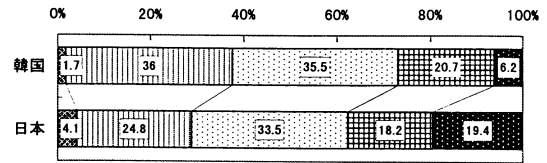


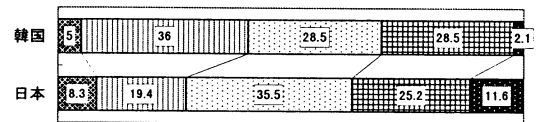
図 9-3 購買態度

\* p < 0.05 \*\* p < 0.01 \*\*\* p < 0.001

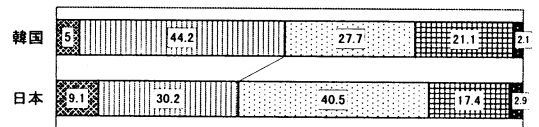
ブランドを重要して買う—ブランドにこだわらない(\*\*\*)



計画を立てて購入する—衝動買いすることが多い(\*\*\*)



衣服にはお金を賭ける—衣服にはあまりお金を賭けない(\*\*)



衣服はシーズンの初めに買う  
—衣服はシーズンの終わりに買う(\*\*)

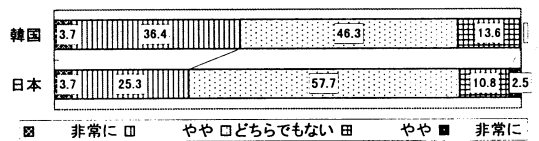


図 9-2 購買態度

\* p < 0.05 \*\* p < 0.01 \*\*\* p < 0.001

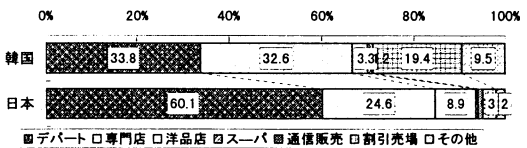


図 10 あなたは外出着をどこで購入しますか (\*\*\*)

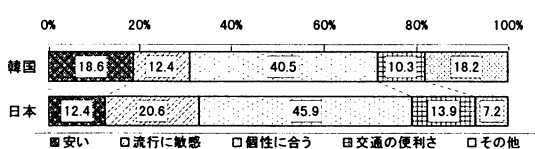


図 11 その理由は (\*\*\*)

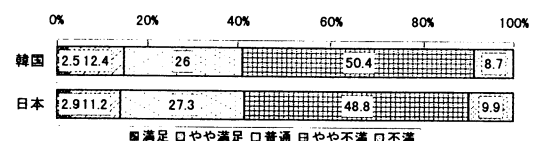


図 12 あなたは現在所有している衣服量に満足しますか

\* p < 0.05 \*\* p < 0.01 \*\*\* p < 0.001

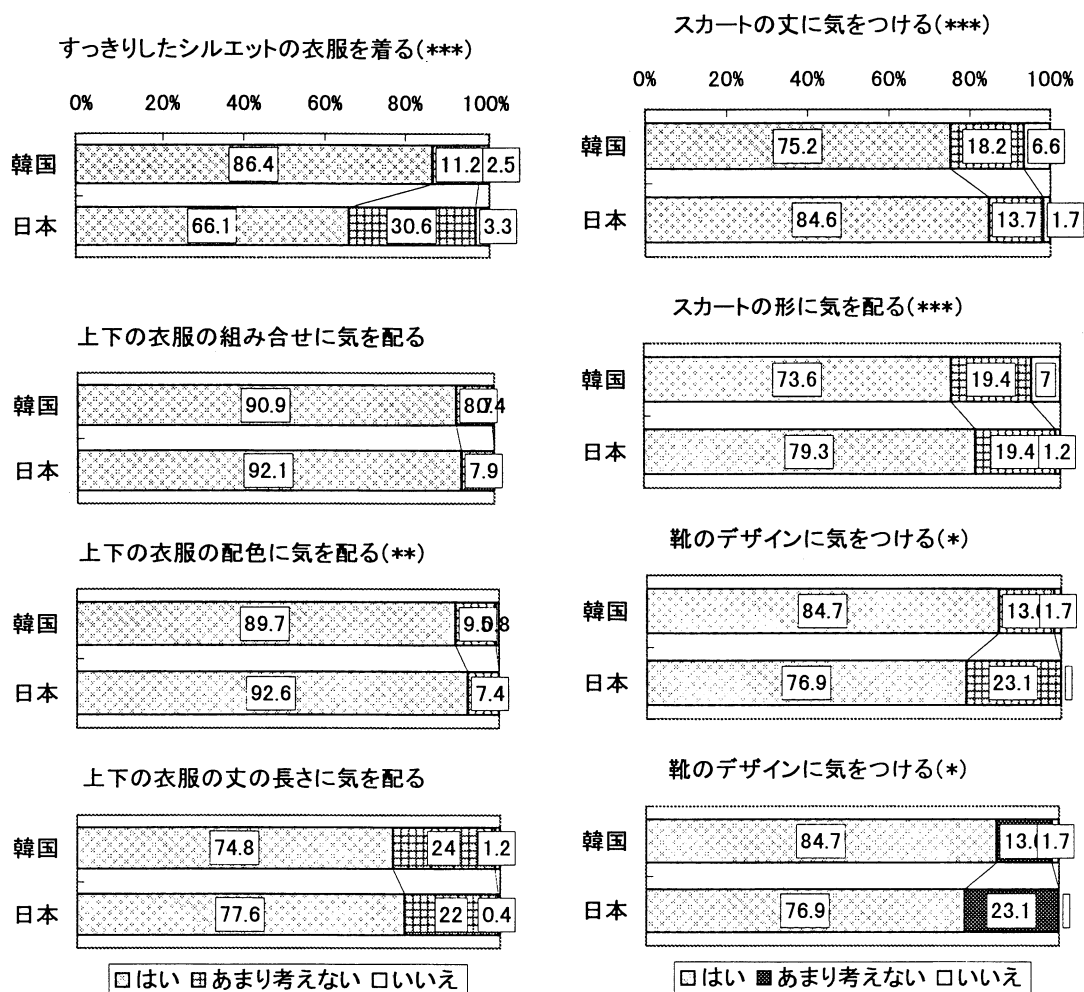


図 13 衣服による体型カバー意識

\* $p < 0.05$  \*\* $p < 0.01$  \*\*\* $p < 0.001$

### 3・2・3 好きな服装のイメージ

好きな服装のイメージについては、図 17 の韓国の女子学生は簡素な、すっきりした、自然な、都会的な、現代的な、地味な、柔らかい、曲線的な等 10 項目に日本の女子学生より高く評価し、危険率 0.1% で有意な差が見られた。日本の女子学生は軽快な、気軽な、明るいなどの項目に韓国の女子学生より高く評価している傾向が見られた。また、好きな服装のイメージに対する意識の構造を明らかにするために、21 項目を変数に、韓日女子学生 484 名を観測回数

として、固有値 1.0 以上で因子分析し、バリマックス回転を行った結果、表 1 に示すように 5 因子が抽出された。第 1 因子は「目立ち」を、第 2 因子は「簡素さ」を、第 3 因子は「軽快さ」を、第 4 因子は「時代性」を、第 5 因子は「カジュアル」を表す因子と解釈した。第 5 因子までの累積寄与率は 54.7% である。次に、韓日女子学生の因子得点を求め、t 検定を行った。その結果、第 1、3、5 因子では両国間に有意な差は認められなかったが、第 2、4 因子には危険率 0.1% で有意な差が認められた。

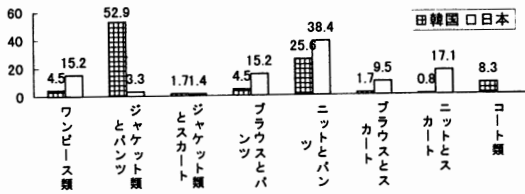


図 14 あなたは外出の時によく着用する衣服は (\*\*\*)

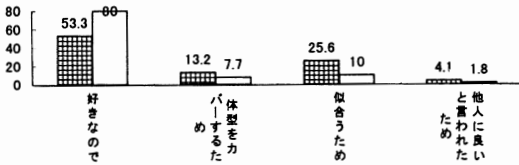


図 15 その理由は (\*\*\*)

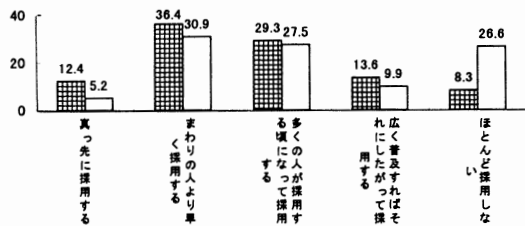


図 16 新しいファッションの採用について (\*\*\*)

\*  $p < 0.05$  \*\*  $p < 0.01$  \*\*\*  $p < 0.001$

## 4. 要 約

衣服の購買・着装行動について、韓国と日本の女子学生を対象に質問紙調査を行い、単純集計、クロス集計、t検定、カイ二乗検定、因子分析によってその差異を明らかにした。結果は以下のとおりである。

### 1. 衣服の購買行動について

- ① ファッション情報については、韓国の女子学生は「売場の陣列商品」、日本の女子学生は「ファッション雑誌」から取り入れている。
- ② 好きな衣服の柄については、韓国の女子学生は「抽象柄」、日本の女子学生は「無地」と答えた人が多く、「好きな衣服の色」についても韓国は「黒」と「白」、日本は「黒」と「紺色系」「青系」、と答えるなど差異が見

られた。

- ③ 購買態度については、韓国の女子学生は流行を重視し、バーゲンを利用する人が多く、日本の女子学生はブランドにはこだわらず、自分の好みを重視し、数より良いものを購入している。

### 2. 衣服の着装行動について

- ① 衣服による体型カバー意識については、両国の殆どの人が「衣服の組み合わせ」、「配色」、「衣服の丈の長さ」に気を配っており、スタ

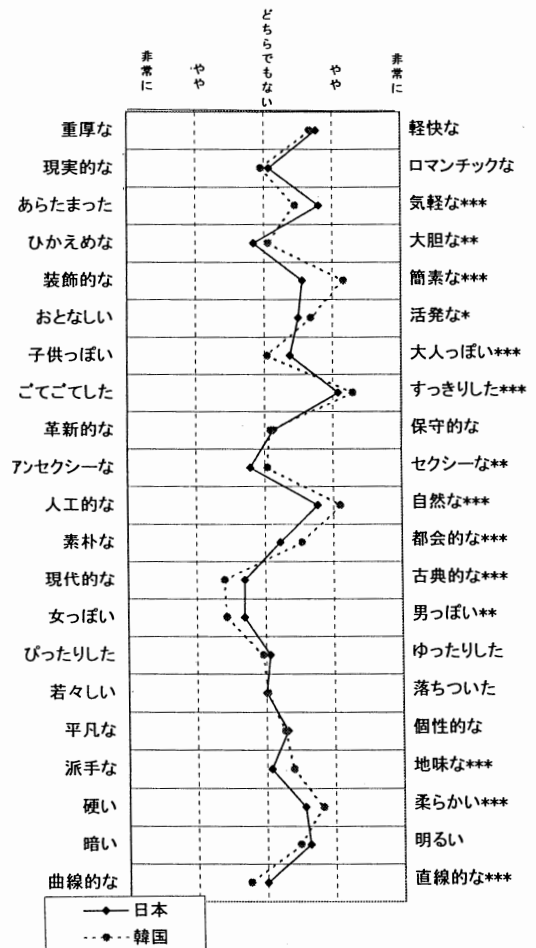


図 17 好きな服装のイメージ

\*  $p < 0.05$  \*\*  $p < 0.01$  \*\*\*  $p < 0.001$



表 1. 好きな服装のイメージに対する因子分析

（韓日の女子学生 N=484）

	項目	因子負荷量
第1因子 （目立ち）	大胆な－ひかえめな	.716
	個性的な－平凡な	.701
	セクシーな－アノセクシーな	.686
	都会的な－素朴な	.611
	保守的な－革新的な	.573
第2因子 （簡素さ） ***	地味な－派手な	.546
	すっきりした－ごてごてした	.754
	簡素な－装飾的な	.707
第3因子 （軽快さ）	自然な－人工的な	.689
	軽快な－重厚な	.692
	活発な－おとなしい	.630
	気軽な－あらたまった	.604
第4因子 （時代性） ***	大人っぽい－子供っぽい	.523
	ゆったりした－びったりした	.667
	古典的な－現代的な	.667
	落ち着いた－若々しい	.559
第5因子 （カジュアル）	男っぽい－女っぽい	.553
	柔らかい－硬い	.622
	ロマンチックな－現実的な	.586
	直線的な－曲線的な	.583
	明るい－暗い	.569

\*\*\*:  $p < 0.001$  （2つの母平均の差の検定；韓国と日本）

イルがよく見えるような工夫をしている。

- ② 着装態度については、外出着として韓国の女子学生はジャケットとパンツと、日本の女

子学生はニットとパンツと答え、日本の女子学生の方がカジュアルな外出着を好んでいる。

- ③ 韓日女子学生の好きな服装のイメージに対する意識の構造には5因子が抽出された。「目立ち」、「軽快さ」、「カジュアル」の因子では両国間に有意な差は認められなかったが、「簡素さ」、「時代性」の因子には危険率0.1%で有意な差が認められた。

なお、本報は日本家政学会第51回（1999年度）大会研究発表会で発表したものである。

引き続き第3報では韓日女子学生の体型意識と購買・着装行動の関連について報告する予定である。

## 引用文献

- 1) 川崎、河本、塩見；繊維消費学会誌、Vol. 37, No. 1, P. 39-44 (1996)
- 2) 川本、渡辺、黒田、中澤、中川；繊維機械学会、Vol. 45, No. 11, P. 53-63 (1992)
- 3) 井手、磯井、風間；繊維消費学会誌、Vol. 37, No. 11, P. 55-61 (1996)
- 4) 安、孫、李、中川；ファッションビジネス学会論文誌、Vol. 5, 12, P. 1 (1999)